

令和6年度（2024年度）第4回環境基本計画推進委員会 議事録

- 1 日 時 令和7年（2025年）1月10日（金）14時00分～15時30分
- 2 場 所 東海市役所 403会議室
- 3 出席者 山本 隆明、吉原 雅哉、近藤 高史、牲川 順一、早川 権慈、毛利 まり子、南川 陸夫、寺島 賀子、武富 時満、田中 治幸、森岡 良枝、吉鶴 弥生、加古 博之、龍田 昭一、千頭 聡アドバイザー（委員14名、アドバイザー1名、敬称略）
環境経済部次長兼生活環境課長、生活環境課ゼロカーボン戦略室長、生活環境課統括主任2名、生活環境課主任2名、リサイクル推進課主任（事務局7名）
- 4 欠席者 榊原 弘之（敬称略）
- 5 会議の公開 公開
- 6 傍聴者 0名
- 7 内容

(1) あいさつ

山本委員長よりあいさつを行った。

(2) 報告事項

事務局より、以下の内容について、報告を行った。委員からの質問等はなし。

ア 前回委員会議事録について

イ スケジュール

(3) 協議事項

ア 第3次東海市環境基本計画 計画書について

事務局より、資料3-1「第3次東海市環境基本計画 計画書について」、
資料3-2「パブリックコメントに対する意見及び市の考え方（案）」を説明した。

（生活環境部会委員）：パブリックコメントの意見に対する市からの回答について、
本計画に関わらず「今後の参考にします」という言葉がよく使われるが、具体的にどのような形で参考にされていくことになるのか。

（事務局）：まず、頂いた意見は、担当課に見てもらい把握してもらっているが、実務的にどうしていくのかすぐに回答を出せないものも多く、生活環境課でもフォローアップをしながら、担当課が事業を進めていく段階で参考にしてもらうよう対応して

いる。ただし、どこまでフォローアップが必要かという点については、計画策定の一步先の話でもあり、今後の検討課題だと考える。

例えば、今回のパブリックコメントで出された、調整池の草刈り時期を野鳥の繁殖期より後ろにずらして生態系に配慮すべきだというご意見については、担当課に確認して対応を相談した。その結果、草刈りの目的は洪水対策であり、5～8月と言われる鳥類の繁殖期と洪水期はちょうど重なってしまうので対応が難しいという担当課の意見であったが、生活環境課から何度も調整をした結果、今後洪水対策に支障のない範囲で配慮できるよう検討していくということになったものである。

(事務局) 市では各課横断による庁内会議の場があり、緑の基本計画や都市マスタープランなどの関連計画の検討や推進などに生活環境課の職員も参加できる。こうした場を通して具体的な取組に関する意見交換や相談も可能であり、所管課においてできる限り検討していただけるように調整をしている。

(社会環境部会委員) 下水道にはみなさん関心を持っているが、上水道にはあまり関心がないと思われる。各地で水の安全性について問題も起きているが、市として本市の上水道についてどう考えているか。

(事務局) 東海市の上水は愛知用水から引いており、県の所管となっている。県からは、特に問題ないと報告を受けている。

(事務局) 東海市も水道事業者の一つとなっており、また水道事業をやっている個別企業もある。こうした水道事業者に対して検査指示も出ているが、調査した結果をみても特に問題はないと考えている。ただ、市民に対するアナウンスが十分でない点もあると思うので、留意したい。

(廃棄物リサイクル部会委員) 40頁の事業者の取り組みについて、「環境マネジメントシステムを通じた」とあるが、「環境マネジメントシステムに基づいた」とすべきではないか。

(事務局) 現時点で全ての企業が環境マネジメントシステムを導入しているわけではなく、導入を進める中で環境配慮に取り組んでいただきたいという思いもあったことから、この表現としたが、ご意見を踏まえて文言について検討する。

※会議後、検討の上で、意見どおりに修正することとした。

(廃棄物リサイクル部会委員) 43頁の「なるべくごみを出さない」について、「できる限りごみを出さない」という表現にしてはどうか。

(事務局) ご指摘のとおり修正する。

イ 令和7年度以降の組織体制について

事務局より、資料4「令和7年度以降の組織体制について（案）」を説明した。

（生活環境部会委員）3部会から2部会に再編するとあるが、生活環境保全・自然共生部会の負担が大きいのと思う。どのように配分を考えられたのか。また、15人から12人にするとあるが、メンバーは、市民から公募するのか、それとも現メンバーから事務局が選んで依頼するのか。

（事務局）「市内に住所を有する者」については市民公募とし、「事業者」や「NPO」については市から各対象団体に対して推薦依頼を掛けていく。

部会の構成について、自然共生分野の負担が大きく大変だというご意見だと思うが、市としては、自然共生とともに、気候変動対策についても重点的に取り組んでおり、今後は循環型社会の分野も非常に重要になってくると考えている。また、3R推進協議会についても今後継続していくこととしており、地球温暖化対策実行計画の進行管理もこの部会で実施していくことを考えると、ボリューム的にもこの分け方が妥当であると考えている。

（事務局）あくまで想定での構成なので、実際にこの組織構成で回すことができるかわからないところもある。まずは1年間実施した上で、人数配分なども含めて、再度検証していく必要があると考えている。

ウ 令和7年度の推進委員会の進め方について

事務局より、資料5-1「令和7年度の推進委員会の進め方について（案）」、資料5-2「令和7年度版環境基本計画年次報告書」を説明した。委員からの質問等はない。

エ 千頭アドバイザー意見

「令和7年度版環境基本計画年次報告書」については、新計画が始まる中での旧計画の振り返り資料になるので、新計画でのバージョンアップをベースとして、来年度の年次報告についても様式が変わってもよいかもしれない。

新計画では、市民・地域・団体や事業者の取り組み例が記載されており、市民・地域・団体や事業者の取り組みについても、本来は進行管理すべきである。どのように進行管理していけるか、知恵を出していただけるとよい。

オ 部会に分かれて検討

令和7年度の推進委員会の進め方について、開催スケジュール、令和7年度版環境基本計画年次報告書の作成方針、令和7年度の委員会で検討するその他の内容について（年次報告書のフォーマット、こういった事業を行っていくとよいか）について部会に分かれて協議し、その意見内容等について各部会長から全体会へ報告した。

カ 各部会からの報告

（ア）社会環境部会（寺島部会長）

スケジュールについては問題ない。

令和7年度の年次報告書についてはこのままでよいが、来年度委員で検討して頂いた方がよいのではないかという意見であった。令和7年度の委員会で検討する内容についても、来年度委員で検討いただくことが望ましい。

社会環境部会ではこれまで大気汚染が大きな課題と認識しており、本部会メンバーが該当事業者内に入って詳しいところまで見学させていただきたいという要望を出していたが実現できなかったもので、ぜひ次期は実現していただきたい。また、委員と事業者との対話についても継続して検討いただきたい。

また、環境マネジメントシステムなどについて、中小企業でも取り組みやすいように、対象事業者への情報提供に取り組んでいただきたいという意見があった。

（イ）生活環境部会（吉原部会長）

スケジュールについては、特に問題ない。

令和7年度の年次報告書について、指標を活用できるようにしていただけるとよい。この報告書については、かなりの負担を伴い作成されていると思うが、これが面白く興味をもって見てもらえるものかという、そうでもない。計画による具体的な活動やそれぞれが携わった取組などが、できる限り具体的に「見える化」され、より見やすいものになれば、市民の関心や興味も深まっていくのではないかという意見であった。

（ウ）廃棄物・リサイクル部会（毛利委員）

スケジュールについては案のとおりでよい。

年次報告書については、字ばかりで見にくい、例えばQRコードで活動がわかりやすく見えるとよいのではないかという意見があった。

報告書のフォーマットはこのままでもよいが、ごみの出し方も含めて環境問題に

ついて、わかっているようでわかっていない人がたくさんいるので、出前講座のような取組をしていただき、人材育成に取り組んでいただけるとよい。

キ 千頭アドバイザー意見

これまでの年次報告書は、指標の推移に対する内容が記述のほとんどで、具体的に何をやってきたのかが不足していたということだと思う。これまでやってきたことがきちんと見えるように、来年度の報告書ではフォーマットを大胆に変えてもよいのではないか。その内容を受けて新計画の年次報告書についても、やってきたことを記載し、それに対して指標がどうだったかという視点で作成できるとよい。

以上